

1. 学校を核としたまちづくり

令和5年度に策定した市の最上位計画である“第3次総合計画”（図1）（以下「総合計画」という。）では、次の10年の目指すべき将来像を描き、その実現に向けたまちづくりの方向性を示している。

総合計画においては、計画を推進するための基本的な考え方として「学校を核としたまちづくり」を位置付け、「学校が地域のキーステーション」であるとの認識のもと、中学校に身近な相談窓口を設置し、行政サービス機能を展開しつつ、中学校が地域の多様な世代や属性の人が集い、交流・活動できる施設となるよう、学校教育環境を維持することを前提として、多機能化、複合化を視野に施設更新を進めることとしている。

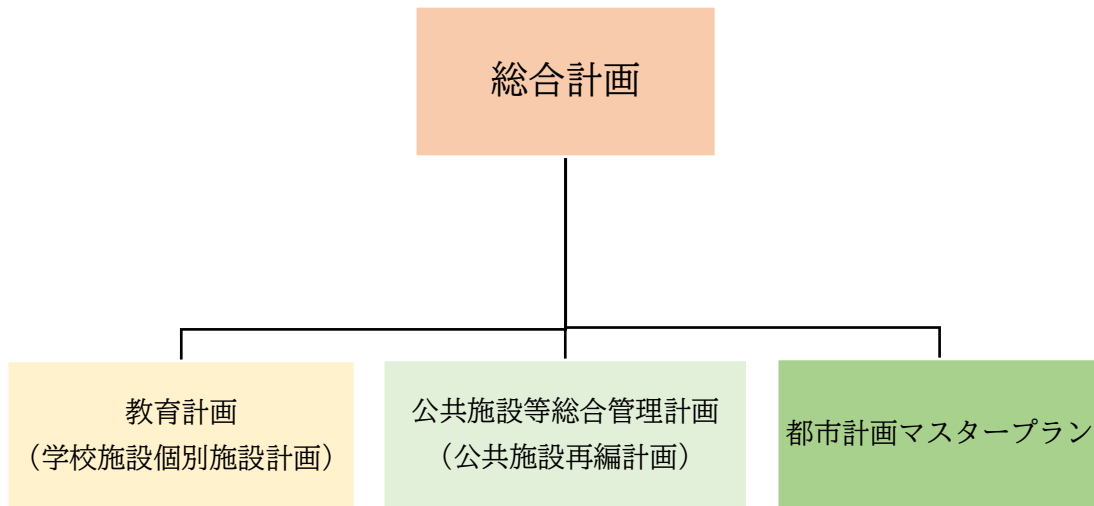
学校を核としたまちづくりは、学校周辺の安全・安心な空間（道路・歩道等）の創出や防災面の強化といった地域課題の解決に向けて分野横断的に取り組む必要があることから、関連計画（図2）を踏まえつつ、庁内分野横断的に連携し、地域市民の意見を伺いながらまちづくりを推進していく。



<デザイン画：「地域の人が集い、交流・活動する」イメージ>



<図1：総合計画>



<図2：関連計画の位置づけ>

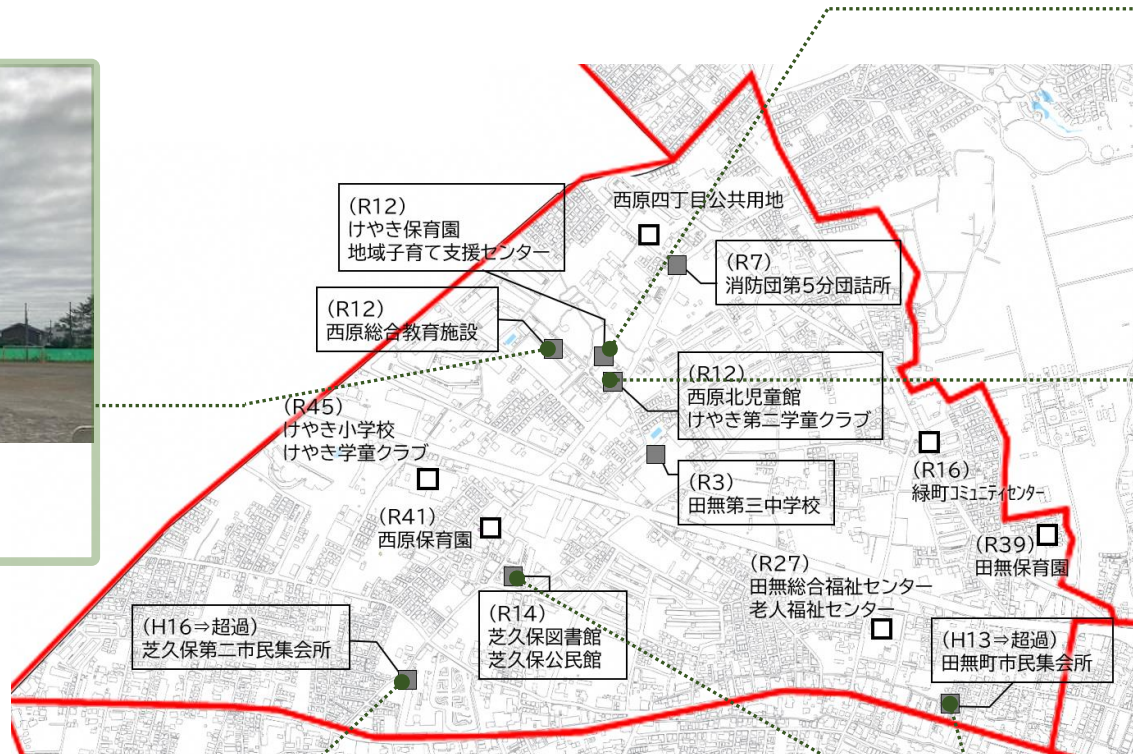
計画名	学校を核としたまちづくりの推進内容
総合計画	計画を進める上での基本的な考え方として「学校を核としたまちづくり」を位置づける。
公共施設等総合管理計画	教育環境を維持しつつ、学校の有効活用に取り組み、集い、交流活動できる施設として地域利用を推進する。
教育計画	児童・生徒の安全性に配慮したセキュリティ対策を前提とした上で、学校施設の地域利用や複合化に取り組む。
都市計画マスタープラン	学校施設の建替えなどの機会を捉え、更なるコミュニティの形成を図るため、学校施設のあり方とまちづくりのルールを検討する。

2. 田無第三中学校エリアの公共施設

《西原総合教育施設》



築年数：44年
敷地面積：13,199.95㎡
延べ面積：5,472.48㎡



《けやき保育園》



築年数：44年
敷地面積：2,434.30㎡、延べ面積：651.54㎡

《西原北児童館・けやき第二学童クラブ》



築年数：44年
敷地面積：1,148㎡、延べ面積：576.29㎡

《芝久保第二市民集会所》



築年数：50年
敷地面積：44㎡、延べ面積：34㎡

《芝久保図書館・公民館》



築年数：42年（都営住宅1・2階）
敷地面積：775.16㎡（専用空地）
延べ面積：1599.47㎡

《田無町市民集会所》

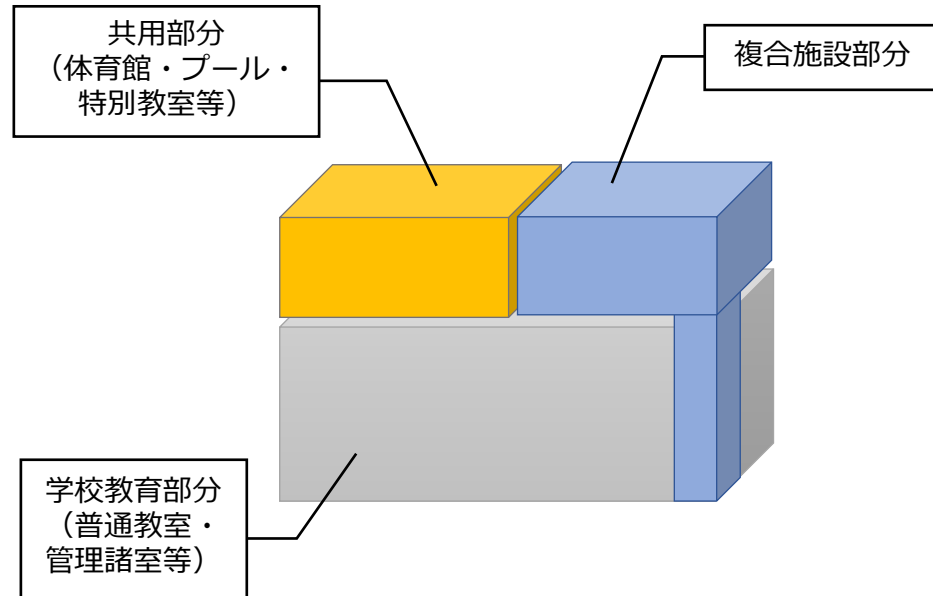


築年数：45年
敷地面積：184.23㎡
延べ面積：90.72㎡

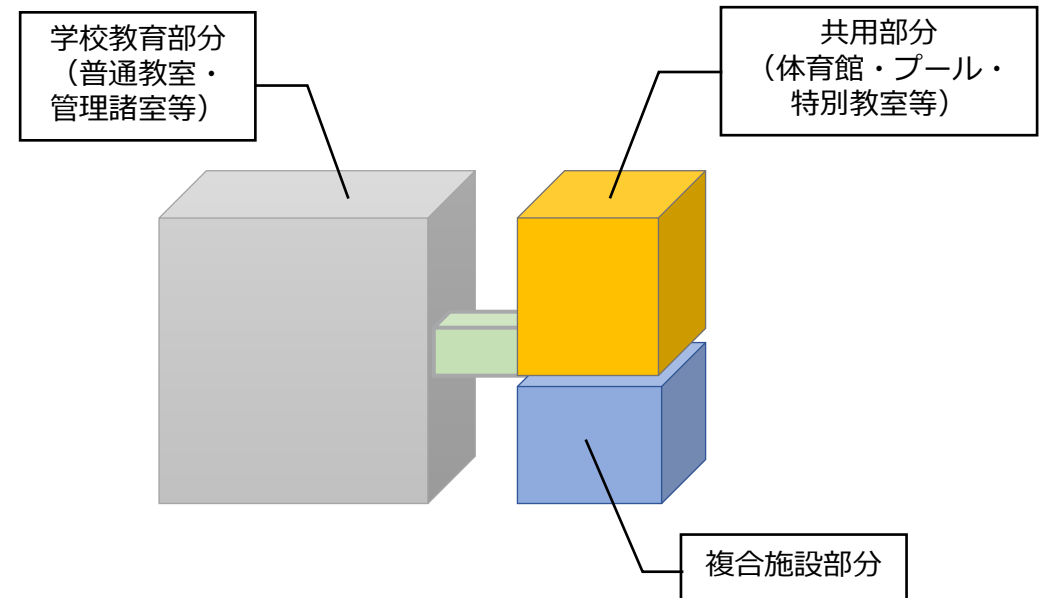
3. 公共施設の複合化

学校施設は公共施設全体の6割程度の延床面積を占めており、学校施設を中心に公共施設等の再編に取り組むことが効果的・効率的であることから、まずは学校施設との複合化・多機能化等を基本に検討する。

【建物一体型の複合化例】



【建物分離型の複合化例】



<図3：複合化パターン例>